

「コナヒロゆうらんバス」運行 6社共同による画期的取り組み

北中南米部会ハワイ・サブ部会では登録団体の旅行会社6社がハワイ州観光局の協賛の下、2020年4月1日からハワイ島観光バス「コナヒロゆうらんバス」の運行を開始します。これはJTB、近畿日本ツーリスト各社、ジャルパック、日本旅行、ANAセールズ、東武トップツアーズの6社が共同出資して開発した商品で、



ゆうらんバスのロゴ



ハワイ・サブ部会長の鈴木卓氏(左)と北中南米部会会長の遠藤修一氏(右)

日本人観光客が拠点とするコナを発着地とし、ヒロの街やレインボー滝といった見どころ8カ所を巡ります。「このバスの運行を通して、ハワイ島の需要喚起につなげていきたい」と北中南米部会部会長の遠藤修一氏。初年度は週3便を運行し、利用者2000人を目指します。

OTAにはできない市場開発

このバスの運行についてハワイ・サブ部会長の鈴木卓氏は、「旅行会社共同の取り組みとしては、過去に9・11のリカバリー対策として、期間限定でシャトルバスの運行をしたことはあったが、6社が共にリスクを背負い、商品開発をした点で画期的」と語り、遠藤氏も「市場開発はOTAにはできない旅行会社ならではの取り組み。これを成功させ、離島の需要喚起と参画会社増加にもつなげていきたい」と力強く訴えました。

JOTC・航空会社インタビュー 第13回

ロシアがより身近に 羽田／ウラジオストック線が就航

S7航空はこれまで「シベリア航空」の名称で知られてきた航空会社で、2005年からブランド名をS7航空へと変更しました。2020年夏に運航を開始する羽田／ウラジオストック線を含め、ネットワーク拡大を図るS7についてお話を伺いました。

——S7の特徴を教えてください。

ホロワ モスクワ(ドモジエドヴォ)、ノボシビルスク(トルマчевォ)のハブ空港を中心に、ロシア国内のほか、CIS諸国やヨーロッパ、近東、東南アジア、アジア太平洋地域へ定期便を運航しています。日本線にはエアバスA320シリーズを投入しており、客席はビジネスとエコノミーの2クラス制です。

——貴社の最新情報を教えてください。

ホロワ 2020年の夏期から羽田／ウラジオストック線を開設し、都心の羽田から、「最も近いヨーロッパ」へ足を運べるようになります。現在ウラジオストック空港を極東のハブとすべく新規路線を相次ぎ開設しており、既存の成田、羽田とも利便性の一層の向上を図っていきます。また関空／ウラジオストック線は2019年から初めて通年運航となりました。引き続き多くの関西地域の方々の利用をお待ちしています。



S7航空 東京支店

営業マネージャー マリア・ホロワ氏(写真左)とアジア太平洋地域営業マネージャーのタチヤナ・シェヴァリエ氏

——日本の旅行会社へ伝えたいことは。

ホロワ 現在日本からはウラジオストック、ハバロフスク、ノボシビルスクへ定期便を運航しています。イルクーツクやヤクーツク、サハリン、カムチャツカへもウラジオストック経由でスムーズにご旅行いただけます。またノボシビルスクは当社の2大ハブの一つで、中央アジアやモスクワ方面へ便利にアクセスが可能です。

ロシアにはまだ知られていない魅力が溢れており、それらをぜひ体感いただこうと、旅行会社向けのファミトリップを年に一度行っています。ロシアへの旅行商品のご相談やご要望などがありましたら、お気軽にお声掛けください。

問い合わせ:0476-34-6058